



◎学校再開に向けて

6月29日(月)より分散登校が終了し、全学年の生徒が一斉登校となります。一斉登校になるのは、2月29日以来、およそ4か月ぶりとなります。言うまでもなく、戦後の学校教育の中では最長・最大の休業となりました。この間、教科書や課題等を郵送で配達したり、ホームページを活用したりする中で動画配信を実施してきました。また、6月からは分散登校で各学年2つのグループに分けての登校としました。

感染リスクを下げるためとはいえ、数が半分になったクラスは広々として、本来の学校が持つ活気は見られません。やはり、学校は生徒たちが、授業にも行事にも部活動にも生き生きと取り組んでこそその場であることを再認識しました。

分散登校が続く中で、あるクラスでは普段会うことが出来ない別のグループに向けて、メッセージボードを作り、メッセージを送っていました。「一緒に頑張ろう!」「お誕生日おめでとう!」「元気?」のようなメッセージから、「しりとり」で言葉を繋ぐ遊びなども見られました。離れていても心の絆はつながっている様子がほほえましく感じられました。また、他のクラスでは「自己紹介カード」が廊下に掲示されていました。

一斉登校開始後は、部活動も段階的に始まります。最初は週2日程度から始め、少しずつ日数や時間も増やしていきます。残念ながら、運動部の中郡大会を始めブロック大会、県大会などの大会は中止となってしまう、吹奏楽部でも西湘吹奏楽コンクールや県のコンクールも開かれません。昨年度、輝かしい成果を残しているだけに大変残念です。しかし、この悔しさをばねに、ぜひ高校に進学した後も部活動などに取り組んで欲しいと思います。

気象情報によると、今年の夏も気温が高くなるという予想が出ています。今年度は、1学期の終業式が7月31日、2学期の始業式が8月18日と夏の盛りとなります。気温が上がる中でのマスク着用や教室換気などこれからも課題が多くありますが、一つ一つ確認しながら注意深く対応していきたいと思います。



◎ツバメの旅立ち

非常階段の1階から2階へと続く踊り場の天井に、ここ数年ツバメが巣を作り、子育てをしています。今年も5月中頃から巣作りを始め、6月には卵を産み、子育てを始めました。今年は新型コロナウイルスの影響で、学校全体が何となく暗いベールに包まれているような雰囲気の中、親ツバメたちは、そんな人間界の事情に関係なく、けなげに巣作り、子育てに励んでいました。

巣では5羽の子ツバメが生まれ、日に日に大きく育っていきました。親ツバメがエサを運んで来ると「ピピピィ〜」と、われさきに大きな口を開けそのエサをせがみます。見る見るうちに大きくなった子ツバメたちは、6月半ばには巣から落ちそうになってきました。

やがて、羽ばたきの練習を始めると1羽、また1羽と巣立っていき、最後は空の巣だけが残っていました。あの、やかましかった子ツバメが旅立ってしまうと夏が本番です。ツバメの旅立ちに、生徒たちの成長が重なり、エールを贈りたくになりました。



